5/23 朝

強いられる不摂生な生活

壊される非正規

新型コロナと氷河期世代

「自分がコロナにかかる分には仕方ないけど、病院でほかの人にうつして迷惑をかけるのはいや。ぎりぎりまで車の中で待機して透析を受けている」

金沢市在住の藤木直子さん（51、仮名）は取材中、口癖のように「人に迷惑をかけたくない」と繰り返しました。

腎機能の低下による週3回の血液透析が始まって4年。透析は1回4時間かかり、透析後も起立性低血圧による転倒や失神を防ぐためしばらくは安静にします。それでも、起き上がると体がふらつき、立ち止まると倒れそうになるのでつえが手放せません。透析後は翌日の昼すぎまで「なんとも言えないだるさ」に襲われます。

主治医の柳沢深志（ふかし）城北病院副院長は、透析患者は免疫力が低下しているため新型コロナ感染症の重症化リスクが高く、必ず定期的に病院に来て治療を受けなければならない特殊性があると指摘。「透析中は密閉空間に数十人が長時間同席する。こまめに換気するなど病院側も普段以上に気を付けているが、不安を感じている患者は多い」と語ります。

透析治療後、腕に止血バンドをする藤木さん（仮名）

福井県のいなかで母1人、子1人で育った藤木さん。父親は他に家庭を持ち、仕送りはたまに来る程度。母親は高校を卒業する直前に亡くなりました。卒業後は大手製造企業の関連工場に就職し収入も安定していましたが、職場の雰囲気になじめず退職。その後はさまざまな仕事を転々としました。

「若いときは昼間に保険の外交員をして夜はスナックとか、朝は市場に出て午後はパチンコ店とか、常にかけもち。その後は派遣会社に登録してメガネのレンズ工場や電子部品工場で働いた。収入は月20万円いけばいい方。夜勤を頑張ったこともあるけど30万円が最高だった」

派遣の仕事が全くない月があると、頼る身よりもないため、消費者金融から借りては返すの繰り返し。電気や水道を止められたこともあります。不規則で長時間の労働で食事はコンビニ弁当やパン、カップラーメンが中心となり、家ではお酒を飲んで眠るだけ。健康は静かにむしばまれていきました。

（4面につづく）